

曲目解説

今回も各校顧問の選曲により、充実したプログラムが実現しました。演奏をお楽しみに！

March-Bou-Shu

(千葉県吹奏楽連盟創立45周年記念作品)

八木澤 教司

Satoshi Yagisawa (b.1975・日本)

八木澤教司は市川市在住の若手作曲家で、管弦楽曲、吹奏楽曲、アンサンブル曲など幅広いジャンルの作品を手掛けている。今年は「吹奏楽のための音詩～輝きの海へ」、「稜線の風～北アルプスの印象」など、大変素晴らしい吹奏楽曲を手掛けたほか、市川市民ミュージカル「いちかわ・真夏の夜の夢」の音楽担当を務めるなど、飛躍の1年となった。地元在住ということで、この「ジョイントコンサート」参加各校との親交もあり、音楽面での良き相談役となっている。

千葉県吹奏楽連盟創立45周年記念作品「March-Bou-Shu」は、千葉県の民謡「房州追分」を素材として、2001年に作曲されたマーチで、今年度の「千葉県吹奏楽コンクール」F部門(千葉県独自)で、課題曲にも採用された。躍動感溢れる旋律や、叙情的な部分など魅力的な作品である。

作曲家 八木澤教司のホームページ <http://www.horae.dti.ne.jp/~yagisawa/home/>

ディスコ・キッド

Disco Kid

東海林 修

Osamu Shoji (日本)

吹奏楽界の夏の風物詩(?)「全日本吹奏楽コンクール」の大編成部門(A部門)には、毎年数曲の課題曲があるが、近年の課題曲は、吹奏楽のために書かれたオリジナル作品か、マーチのいずれかである。しかし過去にはこれを打破する画期的な作品も存在し、1977年課題曲「ディスコ・キッド」はその代表例とも言えよう。これはポップスで書かれ、エレキベース使用も許可された異色作である。多くの課題曲がコンクールが終わると忘れ去られてしまうが、この曲は25年経過した現在でも根強い人気を誇っており、各地の演奏会で取り上げられる機会も多い。

東海林修は日本のポップス界で活躍する作編曲家の1人で、多くのヒット作を手掛けてきた。少し古いが、アニメーション長編映画「さよなら銀河鉄道999」(1981・東映)の、音楽担当という経歴もある。このようなアニメ映画を通して、東海林修の音楽に触れるのも面白いかも知れない。

東海林修のホームページ <http://www.shojicorp.com/>

イタリアン・フェスティバル

Italian Festival

グレン・オッサー(編曲)

Arr. Glenn Osser (アメリカ)

手元の資料が少ないため、詳しい解説は出来ないのだが、イタリアの映画音楽を集めた曲であったように記憶している。編曲者のG.オッサーに関しては、ウェブで検索すると名前は出てくるのだが、残念ながら詳しい情報は得られなかった。しかし、曲自体は結構有名で、演奏会のプログラムで見かけることも多い。今日はこの他に、同じようにフランスの映画音楽を集めたオッサー編曲「フレンチ・フェスティバル」、そして最後はスペインの音楽、エバンス作曲「レディ・オブ・スペイン」を演奏する。短い演奏時間ではあるが、異国情緒をお楽しみ頂きたい。

ペルシス

Persis

ジェームズ・ホゼイ

James Hosay (b.1959・アメリカ)

J.ホゼイの作品はドラマチックな表現で定評があり、日本だけでなく世界中にファンが多い。タイトルの「ペルシス」とは、ペルシャを意味するギリシャ語。ある男性が古代ペルシャの首都、ペルセポリスにタイム・トラベル(時間旅行)した...という、ファンタジーを音楽で描いた作品で、2000年に作曲された。この作品は、作曲家自身の妻に、敬意と感謝を持って捧げられている。

この物語は主人公が突然、古代文明の壮麗な建造物、石像などに囲まれるところから始まる。街を探索するうちに、宮殿の中庭で美しいペルシャ人女性に恋をする。二人はつかの間の時を過ごす。場違いな彼の存在は衛士に知られぬ筈もなく、やがて衛士に追われ、泣く泣くその場を後にする。ストーリー性の高い理解しやすい作品で、なかでも中間部は、引き裂かれる運命にあるとも知らず、惹かれ合う二人の恋を描写したもので、大変美しく歌われ、魅力的である。

第六の幸福をもたらす宿

The Inn of the Sixth Happiness : Suite from film

マルコム・アーノルド

Malcolm Arnold (b.1921・イギリス)

. ロンドン・プレリュード / . ロマンティックな間奏曲 / . ハッピーエンディング

M.アーノルドは、多岐に渡る分野に大量の作品を残している。なかでも映画音楽での成功は、彼を経済的に支えた。アカデミー賞作曲部門に輝いた「戦場にかける橋」(1957)は特に有名である。そんな映画の1つに「第六の幸福をもたらす宿」がある。1958年に公開されて大ヒットしたこの映画は、小間使いをしていた英国人少女が、中国の地でキリスト教の伝道師になるという内容で、舞台はロンドンから中国へと移っていく。その成功に一役買ったのがアーノルドの音楽であるのは疑う余地はないだろう。1996年に吹奏楽用にも編曲されて、多くのバンドで演奏されるようになった。全3曲の組曲に編集されているが、なかでも小気味よいピッコロのソロが登場する第3曲は魅力的である。なお、アーノルドは80歳を越えた今なお現役である。

(今回演奏する松戸秋山高校より、詳しい解説を頂きましたので、別紙添付いたします)

The Malcolm Arnold Society home page <http://www.musicweb.uk.net/arnold/arnold.htm>

ゴッドスピード!

Godspeed !

スティーブン・メリロ

Stephen Melillo (b.1957・アメリカ)

S.メリロは自ら出版社を経営し、近年多数の優れた作品を出版している。メリロの作品には独特の雰囲気があり、2000年頃から日本でも注目され始めたが、その作品を演奏してみたいというバンドは多いが、実際に演奏出来るバンドは限られる。何故なら、メリロの作品は極端に難度の高いものが多いからである。「ゴッドスピード!」は、メリロの名前が日本でも知られるきっかけとなった作品である。やはり非常に難度が高い。しかし、とにかく格好良い作品だ。

速い部分は高い演奏技術とスタミナが要求されるが、中間部はSF映画のワンシーンを見ているような、大変美しく繊細な旋律が現れる。その難度の高さゆえ「ジョイントコンサート」では聴く機会はないであろうと思われた曲の登場に、今回の演奏に関係者も注目している。

Stormworks(メリロの出版社)のホームページ <http://www.stormworld.com/>

グローバル・バリエーション

Global Variations

ナイジェル・ヘス

Nigel Hess (b.1953・イギリス)

N.ヘスは、日本では吹奏楽曲の作曲家として、近年その名が知られるようになったが、本国イギリスでは、テレビ音楽の作曲家として絶大な人気を誇っている。舞台音楽なども手掛けた経験を持っており、有名なロイヤル・シェークスピア劇団の作曲にも携わっていた経験も持つ。この「グローバル・バリエーション」は、ロンドンを起点とする世界一周の旅を描いた「子供たちの夢」を短い演奏時間のうちにならしてしまおう。1990年に作曲された作品(1999年出版)。

わずか8分間の世界旅行です!。イギリスはロンドンのビッグ・ベンの金の音が旅の始まりを告げ、フランス、スペイン、南アフリカ、エジプト、ロシア、インド、中国、オーストラリア、南アメリカ、アメリカ合衆国を順番に旅し、最後にアイルランドとスコットランドを回って再びイギリスに帰ってきます。作曲家ナイジェル・ヘスの洒落たサウンドは、きっと皆様を 快適な旅に導くことでしょう!

(なお、旅行中のトラブルに関しまして当方はいっさい責任を負いませんのであしからず) by 西高トラベル

ナイジェル・ヘスのホームページ <http://www.myramusic.co.uk/>

ディープ・パープル・メドレー

Deep Purple Medley

佐橋俊彦(編曲)

Arr.Sahashi Toshihiko (Comp.Deep Purple)

1968年に結成されたブリティッシュ・ハードロック「ディープ・パープル」の、初期のヒットサウンドをメドレーにした作品。収録されているのは「Burn」(紫の炎)、「Highway Star」(ハイウェイ・スター)、「Smoke On The Water」(スモーク・オン・ザ・ウォーター)の3曲。最近、TVCMで流れている曲もあるので、いくつかはお分かりになるだろうか。この吹奏楽版は、佐橋俊彦の編曲によるもので、1996年に出版された。しかし国内版は現在絶版で、今回の演奏では、オランダの出版社の出した楽譜を使用している。海の向こうでは、日本以上に人気があるようだ。

フィエスタ！

Fiesta !

フィリップ・スパーク

Philip Sparke (b.1951・イギリス)

P.スパークは、かつては金管バンドを中心に作曲活動を行っていたが、近年は多くの優れた吹奏楽曲も手掛けるようになり、国際的な受賞作品も生み出している。吹奏楽界で最も人気のある作曲家の1人と言って良いだろう。スパークの作品は、金管楽器の高音域や、木管楽器に速い指使いを要求するものが多く「難しい！」という印象が強いが、実は多作家で、中・高校生程度でも十分に演奏可能な作品も数多く手掛けている。この作品もそんな中の1つと言える。

この「フィエスタ！」は、アメリカ陸軍野戦軍楽隊の委嘱で、その創立50周年を記念して1996年に作曲された作品である。ホルンとサクソによる堂々としたオープニングに始まり、時に華やかで、時に美しく歌われ、全体を通してスパークの魅力を含み込んだ作品と言えるだろう。

フィリップ・スパークのホームページ <http://www.philipsparke.com/>

エルザの大聖堂への行列

Elsa's Procession to the Cathedral

リヒャルト・ワーグナー

Richard Wagner (1813-1883・ドイツ)

R.ワーグナーは、バイエルン王国(現在のドイツ南部)の、国王ルートヴィヒ2世(在位1864-1886)の庇護を受け、多くの優れた作品を残した19世紀の楽劇作曲家である。単なる作曲家にとどまらず、自ら台本も手掛けるなど、独自の世界を築きあげた。この「エルザの大聖堂への行列」は、歌劇「ローエングリン」に登場するワンシーンで、エルザがローエングリンという騎士に嫁ぐシーンなのだが、物語全体は壮大なスケールなので、詳しい内容については省略したい。原曲は管弦楽曲で、吹奏楽版はL.カイリエによる編曲。緩やかで大変美しい作品である。

絵のない絵本

Picture Book without Picture

樽屋雅徳

Masanori Taruya (日本)

アンデルセン(1805-1875: デンマーク)が、1839年に発表した童話「絵のない絵本」を題材として、千葉県出身の若手作曲家、樽屋雅徳が書き上げた色彩豊かな作品。2000年にレンタル出版された。原作は、1人の貧しい絵描きの若者と、それを慰めるためにやって来る「月」との会話で、『私の話すことを絵におかきなさい』と、月が空の上から見た、いろいろな国の人達の出来事を、この若者に話して聞かせるといった内容である。幻想的な情景が見事に音楽で表現されている。

ウインドマシン(風の音)、オーシャンドラム(波の音)、グラスハープ(ワイングラスを利用した楽器)などが効果的に使用されており、幻想的な前奏、躍動的な前半部を経て、中間部は緩やかで大変美しく歌われる。後半は躍動感を取り戻して、感動的なフィナーレへと突き進む。

交響組曲第2番「GR」より(吹奏楽全曲版) 天野正道

From 2e.Suite Symphonique "GR"

Masamich Amano (b.1957・日本)

天野正道は大変実績を持った作曲家で、手掛ける音楽のジャンルは幅広く、国際的な活動も展開している。自身の作品を再編集して作られた「交響組曲」には、第1番～第9番まであり、いずれも管弦楽曲であるが、2・3・7番については吹奏楽にも編曲されている。ちなみに交響組曲第7番には「BR」の名称が付いているが、これは20世紀末に公開された話題作「バトルロワイヤル」のサウンドトラックを抜粋して作られた作品で、映画タイトルから「BR」と名付けられたものである。天野正道の作品は、このような映画を通して触れることが出来る。

今回演奏する交響組曲第2番には「GR」の名称が付けられている。この作品は、1992年から7年間に渡って制作された、オリジナルビデオアニメ「ジャイアントロボ」のサウンドトラックを抜粋して作られた。原曲は管弦楽団と合唱団、総勢100名以上の奏者のために書かれたものであるが、吹奏楽用に編曲されても、その重厚なサウンド感は失われていない。ファンファーレに始まり、曲中に戦争の悲しみや怒り、平和への賛美などが散りばめられている。最後は合唱も加わり、大変感動的なエンディングを迎える。今回は2年生80名が演奏、1年生100名が合唱で参加し、原曲にも劣らない大編成でこの大作に挑む。これぞジョイント、お聴き逃がしなく！

毎年恒例、最後の1曲。今年はクリスマスの雰囲気で行くらしい。乞うご期待！

ちなみに豊田先生(松戸秋山)が指揮を振ります！